



発行日 2012年06月15日

発行 一般社団法人日本リスク研究学会

会長 長坂俊成

事務局 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内  
日本リスク研究学会事務局 発行責任者・情報管理委員会 瀬尾佳美  
TEL. 03-5307-1175 FAX. 03-5307-1196  
mail: sra-japan@univcoop.or.jp URL: <http://www.sra-japan.jp/cms/>

日本リスク研究学会は、日本におけるリスク研究と研究者相互の交流を図ることを目的として、1988年に米国に本部をもつ国際的なリスクについての学術団体であるSRA(The Society for Risk Analysis)のJapan sectionとして発足しました。現在では、米国、欧州、東南アジアの諸学会と緊密な連携をとりつつ独自の活動を展開しています。

## 1. 新理事決定

2012年春の選挙で新しい理事が決定しました。この選挙で新しく理事になられた方々に、一言ずつ抱負を頂戴しました。順序は原稿の受け取り順です。

### 理事就任挨拶

#### ■新理事 岸本充生（独立行政法人 産業技術総合研究所）

理事当選の連絡はシュツットガルト滞在中にももらいました。そこでは、欧州の第7次研究枠組み計画（FP7）の中の1つであるiNTeg-Risk（「新興の、新規技術関連リスクの、早期の感知、監視、統合的管理」）プロジェクトの年會が開催され、私は国際諮問委員会（IAB）メンバーの1人として参加していました。5年間でおおよそ2000万ユーロの大きなプロジェクトで、欧州各国から、大学や研究機関の研究者だけでなく、行政機関の専門家、保険会社、コンサルティング会社、化学会社などの民間企業の専門家、標準化や認証の専門家など、多様なメンバーが参加しており、新興リスク（emerging risk）をどう扱うべきかについて、熱い議論が交わされました。メンバーの国籍や専門分野の多様性に欧州統合の潜在的な力を感じます。リスクを巡る話題はすでに彼らの共通語になっていて、伝統的なリスクに加えて、新興リスク＝データの無いリスク、を発見し、評価し、管理するための共通フレームワークを作ることが目標となっています。他方、東日本大震災を経験した日本では、その後もリスクに基づくアプローチがほとんど見られません。これほど安全に関心が高まっているなかで、本来ならばリスク研究は抜本的な改革と大幅な強化が図られてもいいはずですが。その中には当然、国や地方レベルでのリスク評価とリスクの優先順位付け、新興リスクの早期発見や対処の手法、リスクやコストのトレードオフといった事項も含まれるはずですし、リスク評価、テクノロジーアセスメント、規制影響評価といった評価インフラがきちんと意思決定プロセスに実装されて、それらが有効活用されるための人材育成や制度改革の議論も起きるはずですが。まずはそういう当たり前のことから手付けて行くつもりです。

#### ■新理事 恒見清孝（独立行政法人 産業技術総合研究所）

---

このたび、日本リスク研究学会の理事に就任することになりました。偉大な理事の先生方の後を引き継ぐことに不安を覚えますが、会員の皆様方のご協力とご支援をいただきながら、学会の発展に努めていく所存です。

日本リスク研究学会には、博士課程在籍中から現在まで大変お世話になってきております。大阪大学の助手・講師の時代は、元学会長の盛岡通先生の研究室で、リスク学事典の編集幹事を務めるとともに、文部科学省ミレニアムプロジェクト「環境リスク診断、評価及びリスク対応型意思決定支援システムの構築」（2000年～2003年）のシステム構築グループおよび事務局を務めました。また、産業技術総合研究所に移ってからは前学会長の東海明宏先生のチームで化学物質のリスク評価を中心に研究活動を行い、産総研で開催された2006年度第19回研究発表会の実行委員会幹事を務めてまいりました。その間、日本リスク研究学会の先生方から様々な局面でリスク学に関する貴重な教を多くいただきましたことを深く感謝しております。

現在は、化学物質のリスク評価やリスクトレードオフ評価を継続しながらも、地震や津波の低頻度大規模災害のリスク評価にも取り組み始めております。学会での活動を通じてリスク科学を幅広く展開するとともにますます深めていき、日本リスク研究学会への恩返しを少しでもいたしたいと存じます。

大変微力ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ■ 新理事 神田玲子（放射線医学研究所）

理事就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

東電福島第一原子力発電所事故を受けて、ここ1年間、効果的・効率的リスクコミュニケーションを模索してまいりましたが、「これは、異分野の研究者の連携により初めて解決できる宿題だ」と感じていることが二つあります。

一つは、リスクコミュニケーションにおける情報のレベルアップや品質管理、そして発信力の強化です。これには様々なリスク源を研究する専門家がネットワークを作る、また「リスクコミュニケーションのコンテンツ作りが得意」「多様な情報発信が得意」「人材育成が得意」と言った研究現場がチームを組織するといった取り組みが必要です。

もう一つは「日本人にとって安全とは何か」という問いに答えを用意することです。現時点では、人によってあるいはリスク源によって、容認できるリスクのレベルが異なりますし、規制で用いている線引きもリスクによって異なっています。そこで、規制の観点からは整合性のとれた、社会の観点からもコンセンサスが得られるような、「安全」のものさし作りが求められていると思います。

出来ましたらこうした活動を通じて、学術コミュニティが社会に対し説明責任を果たすお手伝いをしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 委員会報告

---

### 2.1 学会選挙管理委員からの報告

#### 日本リスク学会 2012 年度役員選挙を終えて

#### - 反省、感想、そして提案-

#### 日本リスク研究学会選挙管理委員会

保高 徹生, 小野 恭子, 水野 敏明, 小林 定喜

皆様ご存知の通り、一般社団法人化されてから初めての役員選挙（理事及び監事）が実施されました。2012年2月1日に公示され、10名の理事候補者に立候補頂きました。投票期間は4月10日～4月30日で、207票（無効票0票：投票率40.4%）の投票を頂きました。5月7日には、選挙管理委員会小林定喜委員長以下4名のメンバーと事務局の木崎さんの計5名で開票・集計作業を実施し、理事当選者9名及び監事2名を選定致しました。会員の皆さまの多大なるご支援により心より感謝申し上げます。

本 Newsletter では、選挙管理委員会の仕事内容、今回の反省と次回への提案を記載させていただきます。

今回の選挙管理委員会には前回の選挙を担当していた小林定喜（委員長）と水野敏明（委員長代理）、そして今回からの新人メンバーとして小野恭子（書記）、保高徹生（書記代行）の4名が長坂俊成学会長からのご指名により委員として参加し、村山武彦学会事務局長から適宜にご助言を受け、また学会事務局の木崎直美氏のご協力のもとで作業いたしました。〔（ ）内は選挙管理委員会内の役割分担〕



メンバー：左から水野委員、小野委員、小林委員長、保高委員、村山氏

---

選挙管理委員会では、選挙全体のスケジュール調整、立候補の告知文書作成、投票用紙作成と郵送、そして開票と選挙結果の会長、理事会への報告、という流れになります。また、選挙内容が一般社団法人日本リスク研究学会役選挙内規に定められている内容に矛盾がないかのチェックも行います。

委員会自体は、本年1月から計3回開催されました。第1回は全体のTODO確認、スケジュール調整と役員選挙公示文書の作成・確認、第2回は投票用紙作成、理事選任投票・監事信任投票実施要領作成、第3回は開票作業と選挙結果報告文書の作成でございました。委員会開催の合間の実質的な作業はもっぱらメールによる通信で行いました。

開票作業に際しては前回10時間程度かかったとのことでしたので、今回は投票用紙等の封筒を開く方法や集計方法について事前に検討・準備を行い、集計結果に関して3度のクロスチェックを含めても4時間程度で終了することができました。

今回の選挙における反省と次回に向けた提案としましては、委員会メンバーから①理事候補者名簿一覧や投票用紙における理事候補名を50音順としていましたが、より公平を期すため立候補届出順にしたほうが良いのではないかとということ、②日本リスク研究学会は学際的であり様々な分野から人が集まっているため、理事候補者の専門分野も記載し投票の判断に資する情報を提供すべきではないか、③理事候補推薦者についても、専門分野やご所属、ご経歴を記載し、投票の判断に資する情報を提供すべきではないか、の3つが挙げられました。また、システムの点においては、ウェブ上での投票に切り替えることを検討しましたが、事務局の移動に伴うデータ移管の必要性があり、その時間と投票日程を考慮した結果、今回は見送りとさせていただきます。

次回の選挙時においては、新規の選挙管理委員会の皆さまには、これらの情報を活用して頂ければと思います。最後になりましたが、本選挙を実施するに当たり学会事務局の木崎直美様、静岡大学前田恭伸先生、東京工業大学村山武彦先生には、事務作業、HP掲載、理事会との連絡等において多大なる協力を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。



開票作業の様子：左から木崎氏、水野委員、小野委員

## 追加のコメント

選挙管理委員会委員長 小林 定喜

今期で2回、選挙管理委員会委員長を務めさせて頂きました。2回とも極めて優秀な委員諸氏が一緒でし

---

たので、委員長は単なる帽子の役目を果たせば良く、作業上は何ら心配することはありませんでした。とは言うものの、前回は当学会最初の役員選挙であり、今回は当学会が一般社団法人となり役員定員などが改正され、また、運営事務局が変更されて初めての選挙であったことから、日程に追われつつ手順の細目などを再検討しながらの作業が続き、つつい会員の皆様とのコミュニケーションが不足する結果となったことは誠に申し訳なく、お詫び申し上げます。

この2回の役員選挙を通じて選挙管理委員会が最も心配していたのは、定員に達する立候補者があるかどうか、ということでした。立候補者数が定員に達しなければ補充選挙をせねばならず、選挙公示後は日程とにらみあわせて補充選挙の準備を用意しながら立候補届を心待ちにする日が続きました。その意味で、まずは、立候補して下さった諸先生に、厚く御礼申し上げます。特に、公示後早速に立候補して下さった久保英也先生（一番乗り）と吉田佳督先生（選管委一同、大いに勇気付けられました）、そして、締め切り間際に定員超となる届けを、滑り込みで出して下さった岸本充生先生と恒見清孝先生（選管委一同、ほんと、安堵致しました）には、ここで特筆して、御礼申し上げます。

折しも大災害からの復興の年にあたり、リスク研究学会の果たすべき役割は重大であります。私自身、50有余年、リスクマネジメント研究に係わってきながら、役立たずの結果に至ったことを深く反省し、なにか取り返す手立てはないかと模索する重い日々を過ごしておりますが、なにぶんすでに、体力知力ともに思うに任せぬ年令です。新役員の方々はもちろんのことですが、会員の皆様、どうぞ皆様全員が理事、役員になっている心算でリスク研究学会の活動を進めて下さるよう心よりお願い致します。

一了

---

## 2.2 平成23年度リスクマネージャ委員会活動報告

委員長 関澤純

### 背景と活動報告

日本リスク研究学会は2006年3月に、JST研究費支援による大阪大学大学院工学系研究科の「環境リスク管理のための人材養成プログラム」をプログラム認定したが、2010年3月でJSTの支援が終了した。リスクマネージャ認定制度は大学の教育システムのプログラム認定および、これを支えていた大学の事務局もなくなり、学会がリスクマネージャ養成と認定に直接関わる状況に大きく変化した。学会全体の事務局も移転する中で、委員会は種々の実務を執行することが困難な事態に追い込まれた。同時に学会の法人化が進み、事業活動と経理の透明性が要求された。新たな制度として書類による資格を認定する仕組みは2008年に発足したが、資格認定の判断基準が必ずしも明確にされていなかった。しかし震災や金融危機他の事象により、リスクへの社会的な関心が高まり、分野横断的に対応可能な専門家集団である日本リスク研究学会がこの関心に対応できる人材を養成する教育活動を強化し、社会の実践的な課題に取り組むが要求されている。

これらを背景に、学会がリスク関連分野への関心の高まりに対応し、委員会は、大学のリスクマネージャ養成プログラムを認定することから、学会としてリスクマネージャを養成する活動を推進するという方向に大変換し、名称もリスクマネージャ認定委員会からリスクマネージャ委員会に改称した。委員会規定を明確化すると同時に、大阪大学大学院教育プログラム修了者と、書類認定された方々のリスクマネージャ資格を学会として認定・登録し、登録料を受け管理し経理計画を作成することを行った。このことにより正式に委員会活動を実施する基盤が整備された。

---

---

次期は、社会とリスク研究が切り結ぶ接点で、リスク研究と実践関連の人材養成、学会の社会貢献を支える新たな事業を検討し軌道に乗せることが求められる。これまで資格制度を支えるものとして受けた登録費用をこの目的に沿い、有効に活用してゆかねばならない。また大阪大学での環境リスクマネジャ資格取得者が自主的な調査研究と研修の組織として立ち上げ活動を展開している、日本リスクマネジャネットワーク（JRMN）との協力も年会などでも協議を進めてきた。今後具体的な事業計画を検討し実行に移して行くことになり、次期理事会でのリスクマネジャ委員会にこのことを期待したい。

---

## 2.3 情報管理委員会報告

情報管理委員長 前田恭伸

前回理事会（2012年3月29日）以降の主な活動は以下の通り。

- 学会 HP の管理
  - 「最近のお知らせ」
    - ◇ 2012-4-11 理事選任投票・監事信任投票の実施要領を掲載
  - 「日本リスク研究学会役員選挙について」コーナー
    - ◇ 「日本リスク研究学会理事選任投票・監事信任投票 実施要領」を掲載
- メールングリスト
  - 随時発信
  - 「マイページ開設」に併せて、国際文献印刷のシステムへの移行を準備中
- ニュースレター
  - Vol.25 No.1 を準備中
- 「マイページ」 を開設

---

## 4. 編集後記

この号で、3人の新しい理事の方々にコメントを寄せて頂きましたこと、大変うれしく思います。また、公正な選挙を実施していただいた管理委員の方々にも、メッセージを寄せていただきました。深く感謝申し上げます。新しい体制の下で、本学会がますます発展することを願ってやみません。

青山学院大学 瀬尾佳美

---